

- *4 同上, 2012年9月4日(夕), 2面。
- *5 同上, 2012年9月6日, 3面。
- *6 同上, 2012年9月6日(夕), 1面。
- *7 同上, 2012年9月7日, 1面。
- *8 同上, 2012年9月7日(夕), 1面。
- *9 同上, 2012年9月7日, 1面。この点に関して, ある民主党関係者は, 「野田官邸では, 代表選後の内閣改造に合わせた党役員人事で, 党が割れた責任を取らせる形で輿石さんを幹事長から更迭しようという意見が出た。これに怒った輿石さんが力を見せつけるため, それまでちらほら出ていた『細野擁立構想』に薪をくべた。あわてた官邸が幹事長職の続投を約束したため, 輿石さんが側近を使って細野さんに出馬を思いとどまらせたというわけです」と語っている(『週刊朝日』2012年9月21日号, 19頁)。
- *10 この点に関して, 「民主党北海道の岡田篤幹事長はこの結果について, 1次産業を基幹産業とする道内では首相が交渉参加を推進するTPPへの反対論が根強いと指摘」していた(『北海道新聞』2012年9月22日, 4面)。
- *11 『北海道新聞』2012年9月16日, 4面。
- *12 同上, 2012年9月20日, 4面。
- *13 関係者へのインタビュー(2012年9月20日)。
- *14 『北海道新聞』2012年9月22日, 4面。ちなみに, 3位の原口の善戦については, 「道内にも反対論が多いTPPへの反対姿勢を明確にしたことや, 推薦人集めに鳩山由紀夫元首相, 新党大地・真民主の鈴木宗男代表が関わったこと」が大きかったとの分析がなされている(同上)。

12月 インバウンド観光の光と影—タイ便就航と中国路線運休 平井 貴幸

はじめに

近年「観光」に関する議論が世界的に活発化している。理由の一つとして, 観光によって生み出される経済効果が, 一国経済または地域経済に大きな影響を与えうることなどが挙げられる。ちなみに, 北海道観光産業経済効果調査委員会によると, 北海道の観光消費額1兆2992億円が生み出す生産波及効果は1兆8237億円, 所得形成効果は9814億円, 雇用効果は16万人, そして税収効果は645億円と推計されている¹。

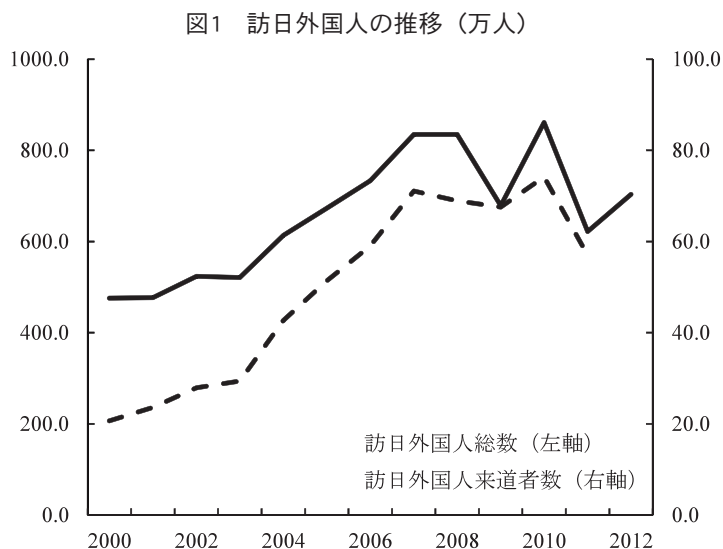
ところで、2012年12月に公表された「企業短期経済観測調査」（短観）を見ると、北海道の景況感は改善しており、なかでも「宿泊・飲食サービス」項目は12ポイント（9月）、16ポイント（12月）と2四半期連続でプラスとなっている²。これは、データが存在する2003年12月以来、初めてのことであり、北海道の観光産業にとって明るいニュースである。また、タイ国際航空が10月31日に新千歳ーバンコク線を就航したというニュースも今後の北海道観光の重要なポイントとなるかもしれない³。その反面、北海道の観光産業に影を落としたニュースもある。それは、いわゆる尖閣諸島問題による中国人観光客の急激な減少である⁴。

以下では、2012年の北海道の国際観光、とりわけインバウンド観光について概観する⁵。

日本全体としてのインバウンド観光

北海道におけるインバウンド観光の動向を確認する前に、日本全体としての動向を見ておこう。

2011年3月に生じた東日本大震災の影響によって、その年のインバウンド観光者（海外からの訪日外国人）の数は急激に減少した。前年の2010年におけるそれは過去最多の861万人を記録したが、2011年では622万人に留まってしまった。これは、「観光立国」を宣言した直後の2004年の水準にほぼ等しい（図1参照）。



出所) 日本政府観光局 (JNTO) 「訪日外客数」 および北海道経済部観光局 「訪日外国人来道者数」 より筆者作成。

注) 2012年の数値は、1月から10月までの合計（推計値）である。また、訪日外国人来道者数の2012年の数値は執筆段階では公表されていない。

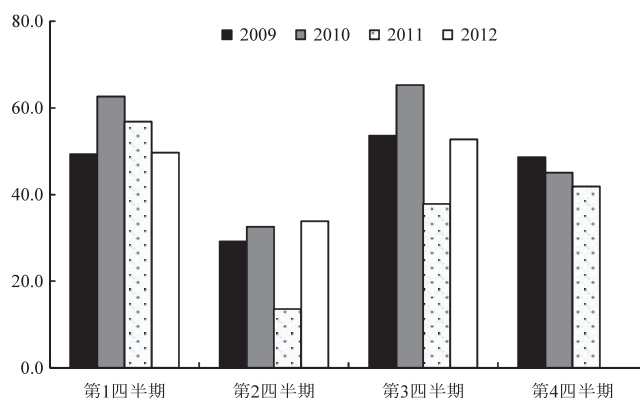
2012年1月から10月までのインバウンド観光者数は、前年同期比で38%の増加であるが、この数字は大震災直後のものとの比較であるため、前々年同期比をみる必要がある。それを計算すると4%減となり、この結果はいわゆる尖閣諸島問題による訪日中国人観光客の減少が影響したものと考えられる。

北海道のインバウンド観光

つぎに、北海道のインバウンド観光者（訪日外国人来道者）数はどのような推移を示していたかを確認しよう。北海道のインバウンド観光は、全国的な傾向性と同様に、2010年まで増加傾向にあった（図1参照）。2010年の訪日外国人来道者数は過去最高の74万人であり、翌2011年のそれは57万人である。2012年の数値は執筆時点で未公表であるため、以下では、利用可能な直近のデータとして観光庁「宿泊旅行統計調査」（各年版）を用いて、北海道のインバウンド観光を概観することにしてしよう。

図2に、2009年から2012年までの外国人来道者（宿泊者）数の推移を四半期別に表示する。北海道のインバウンド観光は、2010年まで増加傾向にあるが、翌2011年には大震災の影響によって急激に減少している。図2を見ると、2012年の宿泊者数は2009年の水準まで回復していることがわかる。

図2 訪日外国人来道者（万人泊）



出所) 観光庁「宿泊旅行統計調査」より筆者作成。

注) 2012年第4四半期の数値は執筆段階では公表されていない。

ここで、国籍別の訪日外国人来道者の推移を表1に示す。北海道のインバウンド観光の特徴の一つは、台湾・香港からの観光客が多いということであるが、表1を見ると、シンガポール・タイ・マレーシアなどの東南アジアからの観光客も多いことがわかる。2012年については、尖閣諸島問題の影響として、中国・香港からの観光客数が伸び悩んでいる。

表1 国籍別訪日外国人の推移

訪日外国人来道者						【参考】訪日外国人（全国）					
	韓国	中国	香港	台湾	豪州		韓国	中国	香港	台湾	豪州
2009	22.7 (12.6)	19.0 (10.5)	40.0 (22.2)	57.1 (31.6)	4.2 (2.3)	2009	218.8 (12.0)	258.1 (14.1)	157.1 (8.6)	263.7 (14.4)	53.9 (2.9)
2010	30.3 (14.7)	29.6 (14.4)	43.3 (21.1)	49.2 (23.9)	4.0 (2.0)	2010	414.8 (15.9)	450.9 (17.3)	191.4 (7.4)	335.9 (12.9)	72.3 (2.8)
2011	21.6 (14.4)	20.3 (13.5)	29.5 (19.6)	42.5 (28.3)	3.7 (2.4)	2011	254.6 (15.0)	271.6 (16.0)	130.1 (7.6)	242.3 (14.2)	48.6 (2.9)
2012*	16.5 (12.1)	21.2 (15.5)	22.2 (16.3)	46.5 (34.1)	2.6 (1.9)	2012*	197.7 (11.4)	345.2 (19.9)	122.3 (7.1)	273.2 (15.8)	47.6 (2.7)
	シンガ ポール	タイ	マレー シア	米国	欧州		シンガ ポール	タイ	マレー シア	米国	欧州
2009	12.6 (7.0)	2.0 (1.1)	— (—)	4.3 (2.4)	1.6 (0.9)	2009	54.1 (3.0)	44.4 (2.4)	— (—)	231.3 (12.6)	125.9 (6.9)
2010	17.2 (8.4)	3.1 (1.5)	5.5 (2.7)	3.6 (1.7)	1.8 (0.9)	2010	77.1 (3.0)	62.6 (2.4)	30.8 (1.2)	276.6 (10.6)	156.6 (6.0)
2011	11.2 (7.5)	2.4 (1.6)	3.4 (2.3)	2.3 (1.5)	1.4 (0.9)	2011	44.7 (2.6)	40.1 (2.4)	20.7 (1.2)	190.0 (11.2)	90.5 (5.3)
2012*	7.8 (5.7)	3.7 (2.7)	1.6 (1.2)	2.3 (1.7)	1.0 (0.7)	2012*	39.1 (2.3)	56.0 (3.2)	20.9 (1.2)	180.4 (10.4)	92.0 (5.3)

出所) 観光庁「宿泊旅行統計調査」より筆者作成。

注) 上段：各国からの訪日外国人数（万人泊），下段：総数に占める割合（％）。

* 2012年の数値は1月から9月までの合計。

最後に、興味深い調査の一つ紹介しておこう。2012年10月18日から30日にかけて実施された、日本政策投資銀行北海道支店の調査である。この調査によると、北海道は「東京・富士山・大阪」のルート、いわゆる「ゴールデン・ルート」上に位置する観光地と同等以上の認知度であり、「観光で訪問したい地域」として北海道を選択した割合が北京・上海・台湾・香港・韓国・タイ・マレーシアの7地域でトップ5に入っている⁶。

おわりに

これまでデータに基づいて、北海道のインバウンド観光の動向を確認してきた。近年では、東南アジア諸国からの観光客が増加している。しかしながら、依然として、台湾からの観光客、あるいは香港を含めた中国人観光客の貢献度が高いのも事実である。そのよう

な中で、尖閣諸島問題に伴う中国人観光客の減少は、北海道のインバウンド観光に大きなダメージを与えた。北海道庁の調査によると、2012年9月から11月にかけての団体ツアー客の約7割がキャンセル、10月以降の新規予約も伸び悩んでいるという。今後、春節（旧暦の正月）の時期を迎えるだけに、さらなる負の影響が懸念される。

その一方で、今回の新千歳－バンコク線の就航を機に、タイやマレーシアなどの東南アジア諸国からの外客誘致を強化する動きも見られる。千歳のアウトレットモール「レラ」では、毎年春節の時期に、中国人観光客向けのキャンペーンを行なっているが、その準備はしつつも、上述の地域の旅行会社に対してツアーへの組み込みを依頼している。また、加守観光はルスツリゾートやアートホテルズ札幌などにおいて、イスラムの戒律に則った食事「ハラル」の提供を開始するという。これはイスラム系マレーシア人への対応である。

このような事態を好機と捉え、北海道におけるインバウンド観光、ひいては北海道経済全体の発展のために、今後、東南アジア諸国を含めたアジア圏の交流を深化させていく取り組みが重要である。

〈参考文献・資料〉

- ・観光庁「宿泊旅行統計調査」。
- ・日本銀行札幌支店「企業短期経済観測調査」（2012年12月、<http://www3.boj.or.jp/sapporo/pdf/jikei24/tank201212.pdf>）。
- ・『日本経済新聞』関連記事。
- ・日本政策投資銀行北海道支店『アジア8地域・北海道観光の認知度、訪問意欲に関するアンケート調査～アジアにおける「北海道」に対する認知度、訪問意欲は日本の観光地でトップレベル～』（http://www.dbj.jp/pdf/investigate/area/hokkaido/pdf_all/hokkaido1212_01.pdf）。
- ・日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数」。
- ・北海道経済部観光局「訪日外国人来道者数」。
- ・北海道観光産業経済効果調査委員会『第5回 北海道観光産業経済効果調査報告書』（平成23年3月）。
- ・『北海道新聞』関連記事。

¹ これらの効果の北海道経済における貢献度は、それぞれ5.4%、5.2%、6.3%、2.9%に相当す

る。北海道観光産業経済効果調査委員会『第5回 北海道観光産業経済効果調査報告書』（平成23年3月）を参照。

- ² 詳しくは、日本銀行札幌支店「企業短期経済観測調査」（<http://www3.boj.or.jp/sapporo/pdf/jikei24/tank201212.pdf>）を参照されたい。
- ³ 日本とタイを結ぶ路線は、羽田や成田などに続いて6路線目で、新千歳と東南アジアを結ぶ直行便の就航は初めてのことである。『北海道新聞』（10月31日）参照。
- ⁴ 中国南方航空は2013年1・2月に予定していた新千歳－広州線の運行を中止した。また2012年10月末から2013年3月末までの新千歳－大連線も運休している。中国国際航空や中国東方航空も機材繰りなどを理由に新千歳－北京線や新千歳－上海線を減便した。『日本経済新聞』（10月17日）参照。
- ⁵ インバウンド観光とは、海外からの観光客を受け入れる観光であり、外貨を獲得するという側面から観光輸出とも呼ばれる。また国際観光とは、自国民が海外へ出国するアウトバウンド観光とインバウンド観光を合わせたものをいう。
- ⁶ 詳しくは、日本政策投資銀行北海道支店『アジア8地域・北海道観光の認知度，訪問意欲に関するアンケート調査～アジアにおける「北海道」に対する認知度，訪問意欲は日本の観光地でトップレベル～』（http://www.dbj.jp/pdf/investigate/area/hokkaido/pdf_all/hokkaido1212_01.pdf）を参照されたい。ちなみに、残りの1地域、インドネシアにおける北海道に対する訪問意識は7位であり、北海道への訪問意識が日本の他の観光地に比して高い傾向にあることが示されている。